



松林麻実子 Mamiko MATSUBAYASHI

講師 Assistant Professor

修士 (図書館・情報学) Master of Library and Information Science

Keywords: 情報プラクティス、情報メディア、学術コミュニケーション、データ共有

Contact: mamiko@slis.tsukuba.ac.jp



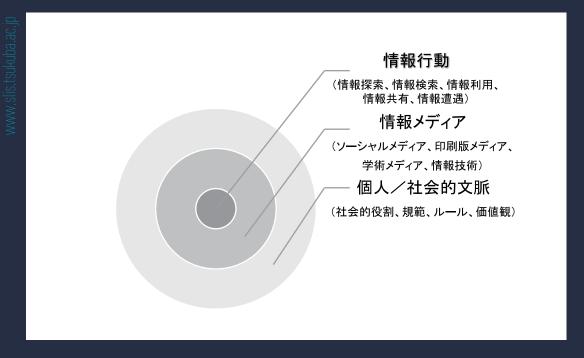
MAGINE

筑波大学 University of Tsukub

## 研究概要

人々が日常生活や仕事、学校等の様々な文脈において情報をどのように利用しているか、について考えることに関心を持っています。特に、そこに行為者の所属する集団・組織や情報メディア環境のような社会的要素がどのように関わるかということについて解明することを大きな目標としています。これは具体的には情報行動と情報メディアのそれぞれに焦点を当てた研究として実行可能です。情報行動に焦点を当てる場合には、学生や研究者といった特定の文脈にある人々がど

のような情報探索行動や情報利用を行っているのかを明らかにし、そこに行為者が特定の社会的文脈や情報メディア環境に置かれていることが如何に関わっているかを考察します。情報メディアに焦点を当てる場合には、特定の情報メディア(私たちが日常的に利用するソーシャルメディアや研究者が利用する学術メディア等)が如何に利用され、どのように認識されるのかに対する調査を通して、人々の情報行動を適切に支援できるブラットフォームの構築を目指します。



# 論文

1)Identifying the Complex Position of Research Data and Data Sharing among Researchers in Natural Science (co-authors: Keiko Kurata, Shinji Mine).

SAGE OPEN, 7(3), 2017 2)Understanding Undergraduate Students' Information Practices in Collaborative Work in Face-to-Face and Online Settings (co-authors: Masaki Takeda, Atsushi Toshimori). Proceedings of the 7th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education & Practice (A-LIEP 2016), pp.217-228, 2016 3)Need and search for specialized information in the scientific, technical and medical fields by the general public in Japan after the Great East Japan Earthquake (co-authors: Atsushi Toshimori, Keiko Kurata). Proceedings of ISIC: Information Behaviour conference 2012, 2012 4)日本の大学・研究機関における研究データの管理、保管、公開:質問紙調査に基づく現状報告(共著者:倉田 敬子、武田 将季). 情報管理、60(2), pp.119-127、2017 5)Remarkable growth of open access in the biomedical field: Analysis of PubMed articles from 2006 to 2010(co-authors: Keiko Kurata, Tomoko Morioka, Keiko Yokoi). PLOS ONE, 8(5), 2013

# 社会貢献活動

これからの科学は、専門領域でとに閉じるのではなく広く一般に開かれたものとなる「オープンサイエンス」の方向に進むと考えられています。私もその立場をとっており、自らの研究成果は可能な限りオープンアクセス(読者は誰でも無料で読むことができる)にしています。また公開講座や講演会の機会をいただければ、自らの研究成果が社会的にどのような意味を持つのかということについてお話して、聴衆の皆さんと意見交換をするようにしています。

#### 関連情報サイト

1) https://www.asist.org/

2) http://www.mslis.jp/

### メッセージ

私たちが日常的に(おそらく大部分は無意識のうちに)行っている情報利用を本当の意味で「知る」こと、つまりそれを言語で説明できること、さらにそこに私たちを取り巻く社会や情報環境がどのように影響を与えているのかについて考察することは、そのこと自体が心躍るものであると同時に、暮らしやすい社会を形成していく上で大切な作業です。個人の行動の研究を出発点として、人々の暮らしや文化を支えるような新しい仕組みを構築してみませんか。